

やまのいも新品種「十勝3号」

誌名	北農
ISSN	00183490
著者	田縁, 勝洋 鳥越, 昌隆
巻/号	78巻2号
掲載ページ	p. 159-159
発行年月	2011年4月

やまのいも新品種「十勝3号」

田縁 勝洋* 鳥越 昌隆*

登録番号：未定 系統名：十勝3号

交配組合せ：No.11 (いちょういも) / 音更選抜 (ながいも)

育成の目的と経過

短根、高品質（高粘度）、ウイルス病抵抗性のやまのいも品種育成を目標として、粘度の高いいちょういも「No.11」を母、ながいも「音更選抜」を父に人工交配を行い、十勝農試および現地での選抜により育成した。十勝農試、十勝農協連、JA帯広市川西、JA音更町4者の共同育成である。

特性の概要

いもの形状は「音更選抜」の“長紡錘型”に対し、短根の“紡錘型”である。「音更選抜」に比べ、いもの全長は10cm程度短く、いも径は2cm程度太い。萌芽期は同程度で、黄変期は1日早く、早晚性は同程度である。催芽性は不定芽の形成がやや劣り、1週間程度長い催芽期間を要する。貯蔵性は同程度である。ヤマノイモえそモザイク病に対する抵抗性は「音更選抜」より強い“強”である。規格内収量は「音更選抜」と同程度かやや劣る。いもの乾物率は「音更選抜」より5ポイント高く、粘度は高い。すりおろしたとろろは、粘りが強いいため、食味評価は良好で、加工適性が優れる。

適応地帯と栽培上の注意

適応地帯は、十勝及びこれに準ずる地域で、20haの普及を見込んでいる。栽培上の注意は、ながいもに比べ不定芽の形成がやや劣るため、1週間程度長い催芽期間を要し、催芽時の腐敗の発生を防止するために適切な管理に努めることである。

この品種への期待

北海道は青森県とともに全国で1、2を競うながいもの主産地である。栽培技術の改良によりながいもの単収は飛躍的に増加したが、本州産のいちょういもやつくねいもに比べ、ねばりが弱く、用途が限られることから、ねばりの強い品種の開発が求められてきた。さらに栽培面ではながいもはヤマノイモえそモザイク病にかかりやすいため、採種圃場ではアブラムシ防除とウイルス罹病株の抜き取り作業が生産者には大きな負担となっている。

「十勝3号」はヤマノイモえそモザイク病に対する抵抗性が強いいため、ウイルス罹病株の抜き取り作業が軽減され、生産コストの低減に有効である。また、「十勝3号」はながいもと異なる形状をしており、短根であるため、作業上扱いやすいと考えられる。さらにねばりが強く、内部品質がながいもと明らかに異なることから、新たなブランド品目として地域に貢献することが期待される。

育成従事者：鳥越昌隆、田縁勝洋、田中静幸、高宮泰宏、入谷正樹、黒崎友紀、柴田浩之、前塚研二、三口雅人、岡崎智哉、澤崎明弘、高山直保、渡邊隆志、宮村透、赤間智史、茂古沼真二

表1 「十勝3号」の試験成績（十勝農試および音更町は平成20～22年、帯広市は平成20、22年の平均）

試験場所	品種名 系統名	萌芽期 (月/日)	黄変期 (月/日)	全長 (cm)	いも径 (cm)	平均 1本重 (g)	規格 内率 (%)	規格内 収量 (Kg/10a)	同左比 (%)	乾物率 (%)	粘度 (Pa/s)
十勝農試	十勝3号	6/17	10/13	47	8.8	974	92.3	4,290	106	21.5	5.4
	音更選抜	6/17	10/14	58	6.2	873	92.7	4,063	100	16.5	3.5
帯広市	十勝3号	6/13	10/20	53	9.6	1,002	98.7	4,460	100	20.5	6.0
	音更選抜	6/9	10/18	68	6.5	1,010	93.8	4,473	100	15.3	3.3
音更町	十勝3号	6/20	10/16	46	9.7	895	95.4	4,364	83	20.6	5.5
	音更選抜	6/17	10/18	66	6.0	1,032	88.0	5,228	100	14.3	3.2

表2 「十勝3号」の特性

品種名 系統名	不定 芽の 形成	草勢	むか ご 着生	雌雄 性	いもの 形状	貯蔵 性	ヤマノイモ えそモザイク病 抵抗性
十勝3号	中	やや 強	やや 多	雄	紡錘型	中	強
音更選抜	良	強	多	雄	長紡錘型	中	中

*道総研 十勝農業試験場 Katsuhiko TABERI,
Masataka TORIKOSI